

Q 2月10日、新たに「中期経営計画」を発表されましたが、その想いを聞かせてください。

A 2014年に発表しました中期経営計画(2014-2016)は、初年度に売上・営業利益ともに過去最高という順調なスタートとなりました。2015年度は、成長分野であるネットワークサービス分野は増収を続けるなど、今後の事業展開に対する手ごたえを掴む一方で、一部システムの不具合対応により、営業活動が計画どおりに実施できなかったこと等により、会社業績予想を下回るなど悔しい思いをしました。ただ、有難いことにその状況下においても、電子受発注サービスへの利用を希望されるお客様からのお問い合わせは多く、特に自動車部品商様の利用数は目標だった200社を大きく超えて300社超で着地しました。これは、業界効率化に対する当社への期待をあらためて実感することにもなりました。今回の中期経営計画(2016-2017)は、お客様の期待に応える意味でも、業績を達成したいと思います。

Q 今回の「中期経営計画」の方針・戦略・数値目標を聞かせてください。

A 今回の中期経営計画(2016-2017)は、2018年度以降に本格的な課金体系・価格体系の変更を目指すための2ヶ年計画となっています。現在、クラウド技術をベースとした次世代システムを開発しておりますが、2018年度から本格的な市場投入を考えて



おります。それを見据え、2017年度までに実現すべき業績目標として売上高200億円、営業利益48億円を掲げています。売上構成は、システム販売分野、システムサポート分野合わせて70%程度、成長分野であるネットワークサービス分野は30%に拡大する計画で、引き続き収益構造の転換を進めてまいります。

電子受発注サービスの利用数は、自動車整備工場様を中心に拡大する見通しですが、さらに利用頻度を向上させるため、機能面の強化にも力を入れてまいります。電子受発注サービスであるBLパーツオーダーシステムは、当社の業務アプリケーションが未導入でも、利用可

能なため、顧客層の拡大を図ってまいります。

その他、次世代システムは従来の仕様を抜本的に見直し、誰でもすぐに使い始められるようユーザーインターフェースも見直します。また、必要なモジュールのみを組み合わせ、目的や予算感に応じてカスタマイズできる仕様とする予定ですので、規模の大小に関わらず当社システムをご利用いただけるようになり、当社システムのシェア拡大に大きく寄与すると考えています。

BLパーツオーダーシステムなどの電子受発注サービスや自動車部品取引・流通サービスといった新たな独自サービスと連携することで、次世代システムは当社の優位性をより際立たせるものになると思います。



Q 初年度である2016年度の計画を聞かせてください。

A 2016年度の売上高は前期比7.0%増の180億円、営業利益は19.3%増の30億円、当期純利益は29.4%増の16.2億円を計画しています。新組織の編成など新規顧客の獲得の強化を図るとともに引き続きネットワークサービスの売上分野を拡大してまいります。次世代システム開発の本格化で投資コストが増加いたしますが、今後の成長の基盤となりますので、計画どおり早期に、ご提供を開始できるよう開発を進めてまいります。

また、2016年度は「10周年」を記念し、年間配当は、記念配当5円と普通配当25円を合わせ実質5円増配の30円を予定しております。

次なる10年に向け、新たな成長ステージへと歩みを進めるうえで、非常に重要な時期です。株主の皆様におかれましては、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

日中省エネルギー・環境総合フォーラムに 執行役員羽生武史が登壇

2015年11月、第9回日中省エネルギー・環境総合フォーラムが都内で開催されました。日中官民関係者合わせて約750名が参加し、「自動車リサイクル」がテーマの長期貿易(LT)分科会で当社執行役員羽生武史が『リサイクル部品流通プラットフォームおよび中国事業ご紹介』と題して講演を行いました。

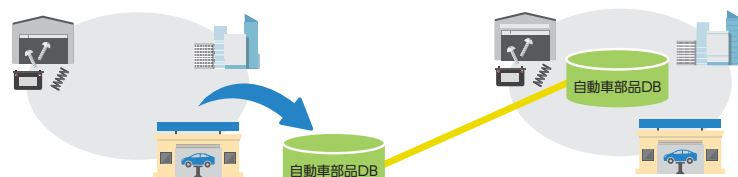


フィリピン現地法人の設立 および合弁契約の締結について

2015年12月、ASEAN地域での将来的な自動車部品流通プラットフォーム展開を目指して、フィリピンに現地法人「Broadleaf I.T. Solutions Inc. (以下BLITS)」を設立しました。

また、BLITSとフィリピンの大手保険会社であるスタンダード保険の子会社および関連会社の3社間で、共同出資会社「Blisam Trading Corp.」設立に関する合弁契約を締結しています。

フィリピン(2016～) → ASEAN他地域(将来展望)
提携先の現地保険会社の流通スキームを活用しリサイクル部品、純正部品、優良部品の販売スキーム(EC)を早期に構築
将来的に、ASEAN全域(タイ、インドネシアなど)において同スキームでの展開を想定



フィリピンでの部品販売を通じてデータベース(DB)を構築し、他地域でも展開

お客様課題の解決に向けた取り組み インタビュー コールセンター部 部長 佐藤広也

私たちコールセンター部には年間約15万件にも及ぶお問い合わせがあり、それを70名ほどの体制で対応しています。操作・機能説明や改善のご要望など、その内容は多岐にわたり、販売終了の商品も含めて全商品のお問い合わせをいただきます。

なかには、営業現場だけではサポートしきれない商品のご案内に関することや、現地へのPC設定依頼なども多く「受け身」の体制を変革する必要性を感じていました。そこで、2013年より主体的にお客様の課題を解決する「攻め」の体制への変革に向けた検討をトップとともに重ねてまいりました。

一つ目は、「リモートオペレーション」の導入です。これは、システム搬入後の煩雑な設定を、私たちが遠隔操作で代行するものです。電話一本で即座に対応可能なので、お客様にも非常にお喜びいただいています。また、営業の負担減少など、お客様と双方にメリットのある仕組みを導入できたと考えています。

二つ目は、「定期コール便」というサービス・プロセス・モデルの導入です。これは、定期的にお客様へご連絡し、日ごろのお困りごとを解決するだけでなく、更なるサービス提案を差し上げるものです。

はじめる前は、私たちからのご連絡が、お客様のご負担になるのではないかと心配はありましたが、実際行ってみると、これまで十分にケアできていなかったお客様から、「新しい提案がないか待っていたよ」と、お声をかけてくださる方が多く、今は非常に手ごたえを感じています。また、お客様から「ありがとう」をいただける機会が増えたことで、職場が活気づくのが目に見えてわかるのも嬉しいことです。組織を預かる者としては、スタッフの成長が会社の成長とつながることを感じられるため、やりがいとなっています。





社会貢献・環境保全活動

ブロードリーフの事業は、クルマの安全性や地球環境への負荷など、社会に大きな影響を与える自動車産業に、深く関わっています。当社では、社会の持続的発展に取り組むことを重要な経営課題と位置づけており、ステークホルダーの皆様のご期待にお応えする社会貢献、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

環境保全活動

「Grow Leafプロジェクト」を推進

「Grow Leaf(グロリーフ)プロジェクト」による、森林再生が必要な土地への植林活動、地域に密着した清掃活動、絵本による環境教育の促進等の活動を展開しています。

植林活動では、NPO法人環境リレーションズ研究所の運営する「プレゼントツリー」を通じて、3万本を目標とした植林活動を推進しています。植えられた樹木は長期にわたって保育管理され、やがて森となって未来の地球へと受け継がれていきます。



「マリアと緑のプリンセス」ミュージカル公演の協賛

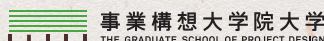
当社は、2008年から7年にわたり、「葉っぱのフレディーのいのちの旅」に協賛し、その文化活動を通じて、生きることの喜びと感謝、循環型社会の素晴らしさを、伝えてまいりました。

2015年は新たに、『思わず家族をそっと抱きしめたいくなるもう一つの“いのち”の物語』をテーマにした「マリアと緑のプリンセス」の協賛を開始いたしました。



産業育成活動

事業構想大学院大学 事業承継研究プロジェクトの客員教授として 当社社長 大山堅司が参画



同大学において「中堅・中小企業事業継承者養成特別プログラム」を担当します。

このプログラムでは、事業承継のために必要な事業構想やマーケティングマネジメントなど多岐にわたるテーマで課題解決を示唆し、自動車アフターマーケット業界の活性化と次世代を担う人材育成に寄与することを目指します。

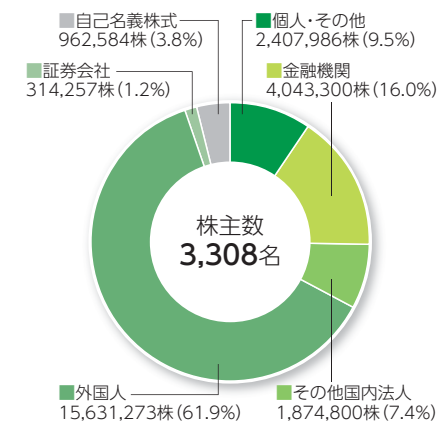
会社概要 (2015年12月末現在)

- 名称 株式会社ブロードリーフ
- 創業 2005年12月
- 設立 2009年9月
- 上場 2013年3月
東京証券取引所第一部(コード:3673)
- 資本金 7,147百万円

役員 (2016年3月30日現在)

- | | |
|-----------|--------|
| 代表取締役社長 | 大山 堅 司 |
| 取締役副社長 | 山中 健 一 |
| 取締役(社外) | 鬼澤 盛 夫 |
| 取締役(社外) | 渡邊 喜一郎 |
| 取締役(社外) | 池田 茂 |
| 常勤監査役 | 青木 伸 也 |
| 常勤監査役(社外) | 柴床 暢 浩 |
| 監査役(社外) | 石井 友 二 |

所有者別株式分布状況 (2015年12月末現在)



株主メモ

- 証券コード 3673
- 事業年度 1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
- 定時株主総会の基準日 12月31日
- 剰余金配当の基準日 期末配当 12月31日 中間配当 6月30日
- 単元株式数 100株
- 公告掲載方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- 同連絡先・郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
- 各種事務手続き 詳しくは、ホームページにてご確認ください。
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>



株式会社ブロードリーフ

〒140-0002
東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川8F

<http://www.broadleaf.co.jp/>



この冊子は、適切に管理された森林で生産された木材を原料に含む「FSC®認証紙」および、印刷用インキに含まれる石油系溶剤の一部を植物油に替えた「植物油インキ」を使用し、印刷工程において水を全く使用しない「水なし印刷」で印刷しています。